

登録コード	HM139300	開講年度	2026				
授業題目	分子生物学動物実験特論				担当教員	平塚 佐千枝 他	
英文授業名	Animal Models in Molecular Biology				副担当	富田 毅・加藤 真良・芦原 典宏	
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期		対象学生
講義室			授業形態	講義	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加						
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				・医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力を身にけ、活かすことができる。		
(2)詳細/Detailed information	一般に転移したがんは予後が悪いことが知られている。がん転移の分子メカニズムはいまだに不明な点が多い。そこで、がん転移を研究するための手法としてモデル動物を用いた実験システムが発展した。本授業では、どのような動物モデルがあるのか、そしてそれを分子生物学的に解析することによってどのような知見が得られるのかを理解することを目指す。						
(3)授業の概要/Overview of course	これまでに報告されたがん転移モデル動物を用いた研究とその応用例について解説する。						
(4)授業計画/Course plan	(第1回— 4 回) 乳がんの肺転移モデルにおける血管内皮細胞の分子生物学 (第5 - 7回) 乳がんの肺転移モデルにおける免疫担当細胞の分子生物学 (第8 - 11回) 皮膚がんの骨転移モデルの分子生物学 (第12 - 13回) 大腸がんの肝転移モデルにおける分子生物学 (第14 - 15回) 膵がんの転移モデル最前線						
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	(a)成績評価の方法 講義中の質疑応答もとに評価する。期末試験の得点の 6 0 % 以上を合格とする。 (b)成績評価の基準 世界の最先端の情報を随時把握するように努め、年度毎に到達レベルを質疑応答および発表形式により評価する。上記の概念、知識、研究への還元への応用性を鑑みて、卓越している（秀）」、「かなり上にある（優）」、「やや上にある（良）」、「水準にある(可)で成績を評価する。						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前事後学習の内容 論文を読むことで、最新の知識を習得するように、教官と学生は両方向性の質疑応答を行い、授業中に解決しなかった項目について自主学習を行い、その後教官と再度議論を行い、習得する。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡						
(8)授業の形式/Course format	論文を中心とした質疑応答方式						